

線材二次製品製造業

原材料となる線材価格の引き上げを前にした製品納入先からの駆け込み需要により、線材二次製品を生産するメーカーでは平成19年後半から20年前半には一時的に受注、生産が増加したものの、その反動でその後の生産は減少に転じているところが多い。

20年10月からは、線材価格はさらに値上げされるが、末端での線材二次製品の動きが鈍く、業界では、これまでのような線材価格上昇分の販売価格への転嫁は難しく、収益悪化が見込まれる。また、公共事業関連の秋需の動きは鈍く、業界は厳しい状況が続くものとみられる。

業界の概要

鉄鋼メーカーで生産される普通鋼を圧延した線材（ワイヤーロッド）は一次製品とされるが、これを原材料に二次加工をして作られる鉄線、針金、釘を線材二次製品と呼ぶ。なお、二次製品をさらに加工して作られるねじや金網などは三次製品である。

線材二次製品の製造工程は、鉄鋼メーカーから仕入れた線材を硫酸または塩酸でスケール（酸化皮膜）を除去したあと水洗いする。さらにすべりをよくするために石灰槽につけ、乾燥させたのち、伸線機にかけ超合金製のダイスの穴に線材を通して引き抜き、必要な径まで細くしていく。このあとの工程は製品によって異なる。伸線までで仕上げるのが普通鉄線、伸線のあと線材に柔らかさを持たせるために焼鈍炉で焼きなましの熱処理をしたものがなまし鉄線である。また、鉄線に亜鉛めっきをするのが針金であり、針金は、さらに表面を塗装したり、塩化ビニル等で被覆したりする

ものもある。釘は、鉄線を製釘機にかけて製造される。

製品の主な用途としては、焼きなましをしない普通鉄線はコンクリートの補強用のほか、各種機械部品や釘等に使われる。なまし鉄線は、古紙の結束用や建築現場の足場結束用等に使用される。針金は各種フェンス、落石防護網、蛇籠など各種金網、有刺鉄線等に用いられる。

このように、需要の多くは土木・建築関連であるが、自動車部品（シートフレーム、天井などの補強用）や、家電部品（扇風機ガード、ガス器具やトースターの部品）、あるいはハンガー部品などにも使われている。

生産形態は、商社・問屋、ユーザーからの受注生産がほとんどで、メーカーには、①線材を伸線し普通鉄線やなまし鉄線を製造するメーカー、②伸線された鉄線を購入し針金、釘に加工するメーカー、③伸線から針金、釘の製造までを一貫して行うメーカーがある。不得意品目などでの仲間取引やOEM生産（相手先ブランドによる生産）も行われている。

大阪の地位

江戸時代後期には、生駒山からの水を動力源として伸線加工をする職人が東大阪市の枚岡地域に集積してきたという経緯から、現在もメーカーの多くが枚岡地域と高井田地域に立地している。

平成18年における大阪府の線材二次製品の産出事業所数及び出荷金額は、普通鋼鋼線（鉄線）で30事業所、511億12百万円（対全国比36.6%、34.9%）、針金で5事業所、47億96百万円（同55.6%、29.9%）、鉄丸釘で8事業所、5億65百万円（同32.0%、19.1%）、鉄特殊釘で13事業所、78億43百万円（同37.1%、36.2%）となっており、いずれも全国で第1位のシェアを占めている（経済産

業省『工業統計表（品目編）』、従業者4人以上の事業所）。

生産は減少

ここ数年の全国の線材二次製品生産量の対前年比は、鉄線は18年以降増加、針金は一進一退、釘は減少となっている。

府内メーカーへのヒアリングによれば、原材料となる線材価格の引き上げを前に、一部で製品納入先からの駆け込み需要が発生し、線材二次製品メーカーでは19年後半から20年前半には一時的に受注、生産が増加した。ただ、その反動でその後の生産は減少に転じているところが多い。

ある鉄線メーカーでは、19年には線材価格の小幅な引き上げが4回あり、20年になって4月と6月に大幅な引き上げがあったため、一時的な駆け込みによる需要が繰り返しみられた。しかし、公共工事の落ち込みや建築需要の減少から土木建築関係の工事業者など末端ユーザーへの実需の動きは鈍く、納入先では、現在在庫水準がかなり高くなっているものとみられている。このため、線材受注は減少しており、20年7月以降、生産は前年に比べ30%前後落ち込んでいる。

また別の鉄線メーカーのなかには、19年6月の改正建築基準法施行の影響による住宅着工の落ち込みから、19年10月頃からは30%程度の減産が続いているところもみられる。

建築工事現場などで使用される、杉、ヒノキ等の丸太をなまし鉄線（番線）で締め上げて固定する足場は、安全性の観点からこのところ金属製の足場にとって代わられつつあり、こうした用途向けのなまし鉄線は減少傾向にある。

なお、冷間圧造用炭素鋼材を原材料とする鋳螺用鉄線は、自動車向けなどを中心に堅調に推移している。

釘では、住宅着工の落ち込みの影響で、あるメーカーでは19年秋から生産が30%あまり減少している。こうした国内における需要減少要因のほか、普通釘では、建築現場で主流となっている連結釘（自動釘打ち機で使用される、ワイヤー等で複数の釘を横並びに結んだ釘）を、国内の大手電動釘打ち機メーカーなどが中国から大量に輸入していることの影響が大きい。こうした動きに対して、1年前から中国の専属工場からの輸入に本腰を入れているケースもみられる。このメーカーでは、現在売り上げ全体の3割程度を輸入しているが、情勢をみてその比率を増やしていきたいという。

輸入品の攻勢が激しいなかにおいて、それぞれの用途に適した材質、形状等が工夫された特殊釘のなかでも、カーペット釘などは現在もアメリカ向けを中心に根強く輸出されている。ただ、こうしたカーペット釘を主力製品のひとつとするメーカーでは、サブプライムローン問題が表面化する以前の18年12月頃から、アメリカでの住宅着工の落ち込みを反映し大幅に減少に転じたという。

収益は厳しい

鉄鋼メーカーの線材価格は、一般的な線材が20年9月現在トンあたり12万円程度と、ここ2年でほぼ2倍に上昇しており、線材二次製品メーカーでは、線材価格上昇分を、ほぼ販売価格に転嫁できている。これまでの値上げ前の駆け込み需要もあり、メーカーの売上げは増加しているところが多い。しかし、焼きなましのための燃料費や硫酸、塩酸などの薬品、製品配送のためのガソリン代など間接的な経費の価格上昇分は

転嫁が難しく、収益を圧迫している。メーカーとしては、増収ではあるものの利益は横ばい、場合によっては増収減益というケースもある。

一部で設備投資の動き

伸線機や排水処理施設などのメンテナンスを中心に、設備の維持・補修は継続的に行われているが、新たな設備を導入する動きはほとんどみられない。ただ、コスト削減のため府外工場での焼鈍炉の燃料を、価格上昇が著しい軽油から都市ガスに転換するという鉄線メーカーや、昨年秋には府内の工場を廃止して生産を府外の工場に一本化し、同時に、採算のよくない製品の生産には見切りをつけ、亜鉛メッキ量の多いG3、G4規格以上の製品や亜鉛アルミ合金めっきなど付加価値の高い製品に特化、そのための設備導入を図ったという針金メーカーがみられる。

なお雇用については、大半のメーカーでは、従業員の新規採用の動きはみられず、必要があれば欠員補充をする程度である。

今後の見通し

20年10月から、鉄鋼メーカーの線材価格がさらに値上げされることになっている。業界では、これまで線材価格上昇分はほぼ販売価格に転嫁してきたが、末端での線材二次製品の動きが鈍いことから、今回はこれまでのような価格転嫁は難しく、線材二次製品メーカーの収益は悪化するものとみられる。

また、公共事業は年度後半に多いことから、業界では例年10月以降の動きが大きく、今年もそうした秋需に大きな期待を寄せているが、今のところそうした動きはほとんどなく、業界は厳しい状況が続くものとみられる。

(内田 英慈)

線材製品生産量の推移(全国)

	鉄線		針金		普通釘		特殊釘	
	トン	対前年比 (%)	トン	対前年比 (%)	トン	対前年比 (%)	トン	対前年比 (%)
平成15年	639,440	95.0	126,901	91.0	35,936	94.0	73,746	101.0
16年	611,555	95.6	128,354	101.1	35,577	99.0	73,253	99.3
17年	544,819	89.1	125,586	97.8	27,453	77.2	65,548	90.8
18年	583,547	107.1	137,414	109.4	24,373	88.8	65,005	99.2
19年	585,533	100.3	134,505	97.9	20,128	82.6	56,881	87.5
20年1～7月	355,169	103.9	77,035	91.6	10,941	83.0	28,890	84.2

資料：線材製品協会調べ

線材・線材製品輸入量の推移(全国)

	普通線材		線材製品					
			鉄線		針金		釘	
	トン	対前年比 (%)	トン	対前年比 (%)	トン	対前年比 (%)	トン	対前年比 (%)
平成15年	113,367	925.4	5,443	291.2	37,116	105.3	29,808	113.1
16年	125,747	110.9	5,259	96.6	36,986	99.6	35,525	119.2
17年	239,796	190.7	15,531	295.3	49,711	134.4	42,664	120.1
18年	246,971	103.0	21,915	141.1	37,707	75.8	50,653	118.7
19年	201,230	81.5	16,595	75.7	41,866	111.0	53,236	105.1
20年1～7月	120,246	96.2	8,179	66.5	24,479	89.8	38,894	124.6

資料：線材製品協会調べ